



困難を乗り越える力を



日本赤十字社福島県支部

事務局長
野崎洋一

日本赤十字社福島県支部では、昨年度に引き続き平成二十一年度も「赤十字すまいるぱーく」事業を県内六市で順次開催しています。九月二日から十三日までの十二日間、須賀川市の岩瀬地域トレーニングセンターで今年度二会場目となる「すまいるぱーく」を開催しましたが、目を輝かせながら会場内で元気一杯遊ぶ子どもたちの笑顔がとても印象に残りました。

この事業は、就学前の子どもたちを対象に、屋内の体育施設に巨大エア遊具やボーリングなどを設置し、放射線の影響を気にせずに思い切り遊んでもらおうと、日本赤十字社が海外からの救援金によ

り実施している復興推進支援事業の一つです。昨年度は県内の六会場で保護者も含め延べ三万五千五百五十人の入場者がありましたが、今年度はそれを上回る勢いです。

県内では、原発の事故に伴う避難指示区域等は別にして、その他の地域では子どもたちが時間を過ごすことの多い学校や公園等を優先して除染が行われており、外で運動をしたり遊んだりできる環境が整つてきていますが、まだまだ子どもの外遊びに不安を感じる親御さんが多いというのが現状のようです。

福島県は東日本大震災の他の被災地とは違い、これからも長く原子力発電所の事故と

ちは様々なハンディを乗り越えて明るく健やかに育つて欲しいと強く願うものです。福島県の復興に向けて、国や自治体による子どもたちへの健康対策や教育環境の整備等の施策がこれからも数多く展開されると思います。しかしそれだけでは十分ではありません。福島の子どもたちにとつて何よりも重要なのは、困難を乗り越え強く生きぬく力を持つことではないでしょうか。そしてそれは誰かから与えられるものではなく、子どもたち自らが様々な体験を通して身につけてゆくものだと思います。

青少年赤十字では、子どもたちに身につけて欲しい生活態度として「気づき」「考え」

「東日本大震災」それに伴う東京電力第一原子力発電所の事故による放射能問題の対策の一つであります除染等も学校優先で行われ環境整備の動きが始まっています。しかし再開されていない学校もあり教育活動はいまだ厳しいしいものになっています。「青少年赤十字活動」も同様に制限を受けていますがそれでも二年ぶりに学校公開ができることがあります少しづつ戻ってきているように感じます。そんな中五月九日（木）に日赤県支部で福島県教育委員会教育長

平成二十五年度青少年赤十字 福島県指導者協議会総会開催

杉昭重様（代理義務教育課佐藤秀美様）、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長小島喜一様のご来賓と県内各地区の



「実行する」の三つを掲げて
います。私は今年四月、日本
赤十字社福島県支部事務局長
に就任して以降、青少年赤十
字の活動について知るにつ
け、今の福島の子どもたちは
正に青少年赤十字の取り組み
が必要なのだと強く思うよう
になりました。

評価されています。日本赤十字社福島県支部は、優秀な指導者の先生方とともに、福島県の子どもたちが青少年赤十字の活動を通して、自分の力で未来と切り開いていく健やかでたくましい子どもたちに成長していけるよう、全力で取り組んでまいります。青少年赤十字指導者協議会の皆様には、今後より一層のご支援には、今後より一層のご支援を、ご協力ををお願いいたします。

この事業は、就学前の子どもたちを対象に、屋内の体育施設に巨大エア遊具やボーリングなどを設置し、放射線の影響を気にせずに思い切り遊んでもらおうと、日本赤十字社が海外からの救援金によ

が整つてきていますが、まだ子どももの外遊びに不安を感じる親御さんが多いというのが現状のようです。

力を持つことではないでしょうか。そしてそれは誰かから与えられるものではなく、子どもたち自らが様々な体験を通して身につけてゆくものだと思います。

青少年赤十字では、子どもたちに身につけて欲しい生活態度として「気づき」「考え」と思います。

り教育活動はいまだ厳しいし、いものになっています。「青少年赤十字活動」も同様に制限を受けていますがそれでも二年ぶりに学校公開ができたことなど少しづつ戻ってきて、いるように感じます。そんな中五月九日（木）に日赤県支部で福島県教育委員会教育長

A group of people, likely students, are seated at desks in a classroom. They are looking down at their work, possibly reading or writing. The room has large windows in the background, and there are posters on the wall. The people are dressed in various styles of clothing, including suits and casual wear.

平成25年度 青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

| 役職名 | 氏名 | 学校名 |
|-----|-------|---------------|
| 会長 | 福井 一明 | 福島市立福島第一小学校 |
| 副会長 | 中村 巧 | 郡山市立大島小学校 |
| 副会長 | 佐藤 則之 | 三島町立三島小学校 |
| 副会長 | 渡邊 望 | 福島県立磐城桜が丘高等学校 |
| 監事 | 佐川 幸信 | 白河市立表郷小学校 |
| 監事 | 星 秀美 | 浪江町立津島中学校 |
| 監事 | 田村 秀夫 | 福島県立福島東高等学校 |

前年度の反省・課題として教職員の青少年赤十字に対する意識・認識の差がみられ、それが研修不足などに表れていた。教職員の多忙に加え、PRしてゆきたいと言う声もありました。教職員の多忙や小規模校では出張がしにくい、研修の参加者の確保が難しくなっているなどが出て各地区での工夫がうかがえるものがありました。

青少年赤十字活動が特別なことととらえず学校教育活動と大いに関わりがあることをもつてPRしてゆきたいと言う声もありました。教職員の多忙や小規模校では出張がしにくい、研修の参加者の確保が難しくなっているなどが出て各地区での工夫がうかがえるものがありました。

会議では前年度の事業・会計決算報告、活動の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議され、すべて承認されました。

並びに高校の県と各地区の会長が出席されて指導者協議会総会が行われました。

のになっています。

今年度の努力目標は昨年度に引き続き、加盟の推進、活動の推進充実、情報交換推進、指導者の育成、関係機関との連携が挙げられました。

次いで役員の改選が行われ、昨年に引き続き福井一明会長が選出されたのを始め上記の役員の方々が選出されました。

●指導主事対象青少年赤十字

研究会
期日 一月十五日(水)
～十七日(金)

場所 神奈川県葉山町湘南
期日 一月十五日(水)
～十七日(金)

場所 山梨県山中湖村東照館
期日 三月二十二日(土)
～二十七日(木)

国際村センター

●青少年赤十字スタディーセンター

五班

川村 卓也

(福島市立第二小学校)

六班 古川 盛也

(前青少年赤十字指導講師)

七班 田村 享子

(磐城第一高等学校)

●青少年赤十字活動

講義

季宇泰住専指導講師 川田 昌利

(磐城第一高等学校)

●演習ワークショッピング

JRC活動つて?

田村 享子

(伊達市立伊達東小学校)

●実技講習

・レクリエーションとそ

の話があり、理解する間も

なくプログラムの流れを止め

ないようにする先生方の戸惑

いから来ているように感じま

した。二日間からの研修は初

日と異なり「指示のない生

活」(掲示板の活用)などを

理解された活動になつてゆき

ます。最終日には同じ班の先

生方と名残を惜しむ姿が見ら

れ疲れたが充実していただ

声も聞かれました。

●青少年赤十字活動

○各班のホームルーム担当

一班 和田 有司

(伊達市立伊達東小学校)

二班 大浪 政輝

(前青少年赤十字指導講師)

三班 箱崎 仁

(いわき市立小名浜第三小学校)

四班 山内 真一

(会津若松市立松長小学校)

五班

川村 卓也

(福島市立第二小学校)

六班 古川 盛也

(前青少年赤十字指導講師)

七班 田村 享子

(磐城第一高等学校)

●青少年赤十字活動

○講義

季宇泰住専指導講師 川田 昌利

(磐城第一高等学校)

●演習ワークショッピング

JRC活動つて?

田村 享子

(伊達市立伊達東小学校)

●実技講習

・レクリエーションとそ

の話があり、理解する間も

なくプログラムの流れを止め

ないようにする先生方の戸惑

いから来ているように感じま

した。二日間からの研修は初

日と異なり「指示のない生

活」(掲示板の活用)などを

理解された活動になつてゆき

ます。最終日には同じ班の先

生方と名残を惜しむ姿が見ら

れ疲れたが充実していただ

声も聞かれました。

●青少年赤十字活動

○各班のホームルーム担当

一班 和田 有司

(伊達市立伊達東小学校)

二班 大浪 政輝

(前青少年赤十字指導講師)

三班 箱崎 仁

(いわき市立小名浜第三小学校)

四班 山内 真一

(会津若松市立松長小学校)

五班

川村 卓也

(福島市立第二小学校)

六班 古川 盛也

(前青少年赤十字指導講師)

七班 田村 享子

(磐城第一高等学校)

●青少年赤十字活動

○講義

季宇泰住専指導講師 川田 昌利

(磐城第一高等学校)

●演習ワークショッピング

JRC活動つて?

田村 享子

(伊達市立伊達東小学校)

●実技講習

・レクリエーションとそ

の話があり、理解する間も

なくプログラムの流れを止め

ないようにする先生方の戸惑

いから来ているように感じま

した。二日間からの研修は初

日と異なり「指示のない生

活」(掲示板の活用)などを

理解された活動になつてゆき

ます。最終日には同じ班の先

生方と名残を惜しむ姿が見ら

れ疲れたが充実していただ

声も聞かれました。

●青少年赤十字活動

○各班のホームルーム担当

一班 和田 有司

(伊達市立伊達東小学校)

二班 大浪 政輝

(前青少年赤十字指導講師)

三班 箱崎 仁

(いわき市立小名浜第三小学校)

四班 山内 真一

(会津若松市立松長小学校)

五班

川村 卓也

(福島市立第二小学校)

六班 古川 盛也

(前青少年赤十字指導講師)

七班 田村 享子

(磐城第一高等学校)

●青少年赤十字活動

○講義

季宇泰住専指導講師 川田 昌利

(磐城第一高等学校)

●演習ワークショッピング

JRC活動つて?

田村 享子

(伊達市立伊達東小学校)

●実技講習

・レクリエーションとそ

の話があり、理解する間も

なくプログラムの流れを止め

ないようにする先生方の戸惑

いから来ているように感じま

した。二日間からの研修は初

日と異なり「指示のない生

活」(掲示板の活用)などを

理解された活動になつてゆき

ます。最終日には同じ班の先

生方と名残を惜しむ姿が見ら

れ疲れたが充実していただ

声も聞かれました。

●青少年赤十字活動

○各班のホームルーム担当

一班 和田 有司

(伊達市立伊達東小学校)

二班 大浪 政輝

(前青少年赤十字指導講師)

三班 箱崎 仁

(いわき市立小名浜第三小学校)

四班 山内 真一

(会津若松市立松長小学校)

五班

川村 卓也

(福島市立第二小学校)

六班 古川 盛也

(前青少年赤十字指導講師)

七班 田村 享子

(磐城第一高等学校)

●青少年赤十字活動

○講義

季宇泰住専指導講師 川田 昌利

(磐城第一高等学校)

●演習ワークショッピング

JRC活動つて?

田村 享子

(伊達市立伊達東小学校)

●実技講習

・レクリエーションとそ

の話があり、理解する間も

なくプログラムの流れを止め

ないようにする先生方の戸惑

いから来ているように感じま

した。二日間からの研修は初

日と異なり「指示のない生

活」(掲示板の活用)などを

理解された活動になつてゆき

ます。最終日には同じ班の先

生方と名残を惜しむ姿が見ら

れ疲れたが充実していただ

声も聞かれました。

●青少年赤十字活動

○各班のホームルーム担当

一班 和田 有司

(伊達市立伊達東小学校)

二班 大浪 政輝

(前青少年赤十字指導講師)

三班 箱崎 仁

(いわき市立小名浜第三小学校)

四班 山内 真一

(会津若松市立松長小学校)

五班

川村 卓也

(福島市立第二小学校)

六班 古川 盛也

(前青少年赤十字指導講師)

七班 田村 享子

(磐城第一高等学校)

●青少年赤十字活動

○講義

季宇泰住専指導講師 川田 昌利

(磐城第一高等学校)

●演習ワークショッピング

JRC活動つて?

田村 享子

(伊達市立伊達東小学校)

●実技講習

・レクリエーションとそ

の話があり、理解する間も

なくプログラムの流れを止め

ないようにする先生方の戸惑

いから来ているように感じま

した。二日間からの研修は初

日と異なり「指示のない生

活」(掲示板の活用)などを

理解された活動になつてゆき

ます。最終日には同じ班の先

生方と名残を惜しむ姿が見ら

8月19日から21日 日程表

| | 8月19日（月） | 8月20日（火） | 8月21日（水） |
|-------|-----------------------------|---------------------|-------------------------|
| 6:15 | | 起床 VS活動 | 起床 VS活動 |
| 7:00 | | 朝の集い | 朝の集い |
| 7:20 | | 朝食 | 朝食 |
| 9:00 | | | |
| 9:30 | 受付 | 実技講習 | 実践報告 |
| 10:00 | 開会式 オリエンテーション | 救急法短期講習 | 「研究推進校の実践」 |
| 10:30 | | | |
| 11:00 | 講義 「赤十字と青少年赤十字」 | 講話 「学校教育と青少年赤十字」 | ワークショップ 「JRC活動を広めよう」 |
| 12:00 | 昼食 | 昼食 | 昼食 |
| 13:00 | ワークショップ 「JRC活動って？」 | | まとめ 閉会式 |
| 14:30 | 実技講習 「レクリエーションと その指導」 | 実技 「フィールドワーク」 | |
| 16:00 | ホームルーム | 自由時間 | |
| 17:00 | タべのつどい | タべのつどい | |
| 18:00 | 夕食 | 夕食 | 入浴 |
| 19:00 | 入浴 | | |
| 20:00 | ホームルーム | ホームルーム | |
| 21:00 | 交流会 | フィールドワーク反省会 | |
| 22:00 | 班長会議 | 班長会議 | 入浴 |
| 23:00 | 入浴 | | |
| | 消灯・就寝 | 消灯・就寝 | |

○講話 「青少年赤十字賛助奉仕団の指導」

福島県レクリエーション協会会員
佐藤 喜也

・「救急法短期講習」

日本赤十字社救急法指導員
酒井 紹雄・大浪 政輝・古川 盛也

古川 盛也・田村 享子・

金子久仁子

○講話 「学校教育と青少年赤十字について」

福島県教育庁会津教育事務所指導主事 岡崎 秀明

田村市立移中学校 田村市立綠小学校
今野千鶴子・白岩 聰子

○実践報告 「研究推進校の実践」

田村市立綠小学校 田村市立移中学校

指導者講習会から

学んだこと

私は、この三日間の講習で
多くを学びました。特に、受
講者が「知らず知らずに」指
導者の意図する行動ができる
ようになるプログラムに感心
しました。

率先して取り組みました。そして、いつの間にかよりよいものを創ろうとする自分たちがいることに気づきました。これはどの班も同じで、「RCのCM作り」や「ファーレドワークの俳句作り」の時などに、各班の特色のある工夫された活動が見られ、私も大いに刺激を受けました。

ただ、私がJRCの指導者として子どもたちの前に立つ時のことを考えると、私のよ

その一つが、受講者に「細かい指示を出さず、掲示板を活用させること」です。プログラムが進むにつれ、受講者は指示や連絡がなくとも、掲示板を活用し時間のやりくりをしながら生活できるようになりました。



指導者講習会に参加して

○ワークショッピング 「JRC活動を広めよう」 (各HR担当) 鈴木 智子

うな感想を持たせたり、自主的に行動させたりできるか私は不安になりました。日常の学校生活で、私は子どもたちに細かく指示を出しがちです。その割に、子どもたちに伝わらないことが多い、自己嫌悪に陥ります。このような私でも子どもたちが自主的に何をすべきか考えたり、行動したりできるように指導できるのか不安になります。



姿、防災や減災、復興について真剣に考えるようになつた姿を見て、この交流がいかに生徒達にとつて大きなものであるかを側で感じております。そういつた事からも、今回こうして自分自身もこの福島とのつながりに関わらせていただけた事をとても嬉しく思います。個性豊かな七班（スター☆イチロー班）の先生方を初め、三重県から参加した私達を暖かく迎えて下さった福島県の先生方、大変な準備の中研修を作り上げて下さったスタッフの皆様方、そしてこの研修参加のきっかけを作ってくれた三重県と福

層の推進をはかることを目的に実施されました。

例年実施されていましたが東日本大震災に伴い二年間見送られた経緯があります。今年度は復興推進支援事業の一つとして全県下高校に参加の希望者を募りました。東日本大震災による地震・津波に加え福島県では福島第一原子力発電所の事故による被害、その後遺症にまだあえぎながらも復興を模索している状況にあります。この事実を伝えるとともに支援を受けたことによ

た。そういうふた事からも、今回こうして自分自身もこの福島とのつながりに関わらせていただけた事をとても嬉しく思います。個性豊かな七班（スター☆イチロー班）の先生方を初め、三重県から参加した私達を暖かく迎えて下さった福島県の先生方、大変

青少年赤十字の実践目標の一つである「国際理解・親善」の具体的事業として県内の青少年赤十字メンバーを海外の赤十字加盟国へ派遣し、同国の青少年赤十字メンバーたちとの交流研修を通して、国際性豊かな青少年を育成し、本県青少年赤十字活動のより一

平成二十五年度
日本赤十字社福島県支部主催復興推進支援事業
国際交流事業「フィリピン派遣」

対する感謝も伝え交流をはかりました。

日下 輔（福島高校二年、生徒代表）、鈴木 悠太（学法福島二年、生徒副代表）、仲川 優葵（本宮高校二年）、橋本 裕太（郡山北工業高校三年）、安藤 摩耶（須賀川高校二年、生徒副代表）、中村 アイリン（猪苗代高校三年、生徒副代表）、新田万里子（喜多方高校一年）、田中 さくら（いわき総合高校一年）、丹野 洋仁（湯本高校二年）、菅野有里子（相馬東高校二年）、吾妻 久（須賀川高校教諭、団長）、小林みゆき（福島工業高校教諭）、青木由紀子（平養護学校教諭、副団長）他支部職員二名、計十五名

今回のフィリピン派遣実施にあたって、計らずも団長の任を預かり、まず第一に日本赤十字社福島県支部をはじめとする関係者の方々のお力添えにより、派遣メンバーが大過なくその日程を終えることができたことに胸をなでおろしている。派遣中のフィリピン赤十字や各学校との交流のためにできる限りの準備はしつもりではあるものの、様々な点で不安をかかえての出発であった。しかし、派遣生徒が良くも悪くもおおらかな性格の持ち主ばかりで、各自が自分の役割を自覚し、これまでに培った「ボランタリーサービス（V.S.）」と「先見」を派遣準備から派遣期間中に至るまで実践してくれた。特に今回の派遣にはJ.R.C加盟校以外からの生徒の参加があつたが、お互に同じ目的意識を持って準備活動に取り組み、次第に心を一つにする

平成
25年度

第五回 福島県青少年赤十字 フィリピン派遣に寄せて

● 日 程

| 月 日 | 内 容 |
|----------|--|
| 8月11日(日) | 移動日 |
| 8月12日(月) | フィリピン赤十字本社訪問、ラス・ピニヤス副支部訪問、バンブーオルガン教会見学、ラス・ピニヤス高校訪問交流 |
| 8月13日(火) | バタアン支部訪問、バタアン公立学校訪問交流 |
| 8月14日(水) | バタアン原発(稼働していない原発)見学、サンギレモ教会見学 |
| 8月15日(木) | クラーク飛行場にて飛行機事故救急訓練見学、神風特攻隊記念碑見学 |
| 8月16日(金) | ケソン市支部訪問、パヤタス小学校訪問交流、ソルト・パヤタス訪問 |
| 8月17日(土) | アメリカ戦士墓地見学、タガイ・タール湖見学、メガモール見学 |
| 8月18日(日) | 移動日 |



これまでに行われたフィリピン派遣と一年ぶりに再開した今回のそれとの異なる点は、東日本大震災以降初めての派遣であることだ。震災後に支援をいただいた国の一つであるフィリピンに直接感謝の意を伝えることは今回の派遣の大きな目的の一つであった。その目的をどの程度達成できたのか、正直なところ自信はない。むしろ、今思うのは、フィリピンの方たちがもっと大きな心で私たちを迎えてくれたということだ。実際、私たちがフィリピンに到着した当日はちょうど台風がフィリピン北部を通過中で、フィリピン赤十字はその対応に追われており、その台風の影響で休校中なのにも関わらず交流会を実施していたのだいた学校もあった。派遣

中、訪問地に予定より二時間近く遅れて到着したにも関わらず、快くプログラムを実施していただいた。日本では「申し訳ございませんが…」と言わざる仕方がないと思われる場面が何度もあったが、それでも、臨機応変に我々を迎えてくださるフィリピンの方々の姿に、心が打たれる思いがした。こちら側の目的や意図をはるかに上回る心遣いで、日本から来た高校生をはじめとする私たちが有意義な時間が過ごせるようにと奔走してくれたださった。

訪問当時も現在も福島県はいまだなお原発事故の余波で、風評被害や将来への不安に苛まれている人々が数多く存在し、日本だけでなく世界の人々にもその現状を知らせたいというのがもう一つの目的でもあった。しかし、今回の訪問を通して、そのフィリピンも常に自然災害で苦しむ人々や地域が存在し、稼働寸前の原発まであることを知つた。様々な理由から貧富の差が増大し、その両方の姿を目にしてきた。失業問題や国内紛争など、フィリピンの人たちにも私たちと同様の将来に対する不安や心配はある事実

で、日本から来た高校生をはじめとする私たちが有意義な時間が過ごせるようにと奔走してくれたださった。訪問当時も現在も福島県はいまだなお原発事故の余波で、風評被害や将来への不安に苛まれている人々が数多く存在し、日本だけでなく世界の人々にもその現状を知らせたいというのがもう一つの目的でもあった。しかし、今回の訪問を通して、そのフィリピンも常に自然災害で苦しむ人々や地域が存在し、稼働寸前の原発まであることを知つた。様々な理由から貧富の差が増大し、その両方の姿を目にしてきた。失業問題や国内紛争など、フィリピンの人たちにも私たちと同様の将来に対する不安や心配はある事実

取り組む姿や、国民が勇気を持つて原発の稼働を食い止め、私たちのような海外からの訪問客を温かく受け入れる姿に接し、お互いに支援したりされたりする立場にいつでもなりうることを忘れてはならないと思った。フィリピン赤十字の活動方針 “Always First, Always Ready, Always There.” に、すぐそゝにある未来に立ち向かう姿勢が見えた。

派遣終了にあたり、派遣中に出会った人々とこれからもお互いの活動について情報交換したり、この経験を具体的な赤十字活動や国際貢献に結び付けることは、派遣された

私たち全員の責務であると考えている。特に参加した生徒たちが、JRCをはじめ県内でできるだけ多くの人たちと志を同じくする個人あるいは団体と、意見交換や新たな活動をはじめることが、今回の派遣を支援して下さった方たちへの恩返しにもなるのではないか。その意味で、参加メンバーにとつて、この経験は赤十字にとどまらず、様々な形で国際協力の場面に役立つ財産になることは間違いないと確信している。

最後に、今回のフィリピン派遣にあたって、その再開を強く後押しして下さった福島県青少年赤十字指導者協議会の先生方、成田空港まで見送りに来て下さった鶴沼先生をはじめ、同行していただいた金子先生と石田先生、および日本赤十字社福島県支部関係者のみなさま、派遣メンバーの生徒および教員を快く送り出していただいた関係各校の先生方、NGOソルトパヤタスの関係者のみなさま、そして私たちの派遣期間中毎日の先生方、NGOソルトパヤタスの関係者のみなさま、そのみなさま、訪問先の各学校の先生方、NGOソルトパヤタスの関係者のみなさま、そして私たちの派遣期間中毎日



福島高校二年 (生徒代表)
日下 輔

二〇一三年九月某日 記す

私たち全員の責務であると考えている。特に参加した生徒たちが、JRCをはじめ県内でできるだけ多くの人たちと志を同じくする個人あるいは団体と、意見交換や新たな活動をはじめすることが、今回の派遣を支援して下さった方たちへの恩返しにもなるのではないか。その意味で、参加メンバーにとつて、この経験は赤十字にとどまらず、様々な形で国際協力の場面に役立つ財産になることは間違いないと確信している。

最後に、今回のフィリピン派遣にあたって、その再開を強く後押しして下さった福島県青少年赤十字指導者協議会の先生方、成田空港まで見送りに来て下さった鶴沼先生をはじめ、同行していただいた金子先生と石田先生、および日本赤十字社福島県支部関係者のみなさま、派遣メンバーの生徒および教員を快く送り出していただいた関係各校の先生方、NGOソルトパヤタスの関係者のみなさま、そして私たちの派遣期間中毎日の先生方、NGOソルトパヤタスの関係者のみなさま、そして私たちの派遣期間中毎日

のリンさんと運転手さん、ジャーナリストの藍原さん、その他フィリピンでお世話になつた全ての方へ、心から感謝申し上げます。

した。結論として渡すことではないと何も渡しませんでした。見て見ぬふりをするようではつらかったですが、最善の選択だと信じました。彼女と出会って感じたもどかしさや悔しさを忘れずに本当なことは何かを見つけ、いつか貧困問題解決の手助けがしたいと思います。

また、派遣六日目はスモーキー・マウンテンで生活する人々が住むパヤタス地区を訪れました。パヤタス地区へ入り、バスのドアを開けたとたんバスの中へ独特の臭いがたちこめ、ここは本当に貧困地域だと感じました。現地のスタッフからパヤタス地区の説明を受けた後、私たちは四つの班に別れ、それぞれ家庭を二ヤ板で屋根が作られ、床はそのままの地面でした。頭をぶつけそうなほど低い天井には電球が一個ぶら下がっていました。私が訪れた家庭のお母さんは一日の収入は、ゴミ山からペットボトルや新聞紙を拾い、百～百五十ペソ（日本円で二百～三百円くらい）、布で織物などを作り、それらを売ったお金も収入の一部になると言っていました。安定



した収入が無いため食べ物が無い日もあることを知り、私は今まで何気なく言っていた「いただきます」「ごちそうまでした」の重みを感じました。震災後生活が一変をもつて感じたはすが、たつた二年でそれを忘れ、一日三食が当たり前だと感じていた自分に気づき、愕然としました。家庭訪問を終えるときに「同情はしないで欲しい。私たちの発展を見守ってほしい。」と言われ、先進国が発展途上国を支援する動きが世界にもつと広まれば、貧困問題を解決することができるかもしれません、と思いました。

二日目、三日目、六日目と学校を訪れました。私たちの乗ったバスが校門に入るとすぐの八日間の滞在を感じた。この八日間の滞在で、フィリピンのおもてなしの文化、人のあたたかさには本当に感動しました。またいつかフィリピンへ行き、人々の幸せのために貢献したいと思います。最後に、日本赤十字社福島県支部の方々、八日間共に過ごした先生方やメンバーの皆さん、出会えた全ての方々に感謝します。ありがとうございました。

喜多方高校一年
新田万里子

ぐに鼓笛の演奏が始まつたり、二百～三百人くらいの生徒たちに大歓声で出迎えられました。小学生の子どもたちはフィリピンの伝統的な踊りやフイリピンの誕生劇を披露してくれました。そのお返しとして私たちは福島の今を伝えるプレゼントやよさこい、歌などを披露しました。回数を重ねていくごとに満足のいく発表ができる様になり、みんなに喜んでもらえたので良かったです。

この八日間の滞在で、福島の支部を回り、フィリピンの赤十字の活動について説明を受け、建物内の見学をしました。その中でも六日目に訪ねたケソン市支部の活動内容が印象に残っています。移動用キッチン車で料理を提供したり、無料で医療サービスを行つたりと貧困地域を継続的に支援しています。ケソン市もを五十人選び、その母親たちは料理を教えています。料理を教えることも赤十字のスラム街の状態の悪い子どもをもつたため稼働するという話はなくなりました。一度も使つてないと聞いて、最初はもつたないなと思いました。だが、福島の原発事故と同



で、私たち十五人を温かく迎えてくれました。踊つてているときの笑顔はとても印象的でした。フィリピンの子どもたちに、折り紙や名刺を渡そうとすると積極的に手を伸ばしてくれ、帰るときみんな手を振つてくれました。

バタアン原発の見学では、原発の中へ入つていくのはめつたにできない体験でした。原発の建物を見たときは壮大な感じがしました。稼動しようと思ったこともあつたのですが、旧ソ連のチエルノブイリ原子力発電の事故、日本の福島第一原子力発電所事故があつたため稼動するという話はなくなりました。一度も使つてないと聞いて、最初はもつたないなと思いました。だが、福島の原発事故と同

じようになつたら恐いので稼動しない方が良いと思いまし
た。

ゴミ山から五百メートルほど離れたパヤタス地区のソルトパヤタスを訪問しました。そこでボランティアをしている日本人や、実際にパヤタス住んでいる方からお話を聞きました。パヤタスという地域には広大なゴミ投棄場があり、分別されずに次々と運ばれてくるゴミは強烈な悪臭を放っています。その中から再生可能な物を探し拾い、それを業者に売つて生計をたてている人たちがいます。時には子どもが混じっていることもあります。子どもが混じっていることもあると聞きました。パヤタスに住んでいる人々はみんながみんなゴミを拾う生活をしているのではなく、洗濯の仕事など自分たちが稼いだお金で生計を立てていて、しつかりした生活をしていました。しかし政府のゴミ山拡大の意向で、そこに住んでいる人たちが強制的に立ち退きになると聞きそれはかわいそうだと思いました。

第五十号には二年ぶりに再開されたフイリピン派遣の記事を掲載しました。参加メンバーが国際理解と親善の目標を意識した有意義な日々を過ごした様子が描かれています。お忙しい中原稿をお寄せいたただいた方々、協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

今年度も
多くの学校・団体が
赤十字救急法を受講
これまでに日赤県支部に報
告のあつた救急法を受講した
学校・団体を掲載しました。

て、フィリピンの貧しい人たちのために募金活動など今までされることをやつていきたいと思います。そして、貧しく学校のない国に学校を建てることが私の夢です。そのため、世界の貧困問題の現状をもつともっと勉強し、夢の実現のために頑張りたいと考えています。

平成25年度赤十字救急法受講状況

| 日 時 | 学校・団体 | 受 講 者 | 人 数 | 日 時 | 学校・団体 | 受 講 者 | 人 数 | | | | |
|-------------|----------------------|------------|-----|----------------|--------------------------|-------------|-----|--|--|--|--|
| 基礎講習 | | | | | | | | | | | |
| 7月22日 | 尚志高校 | JRC委員及び希望者 | 32 | 7月5日 | 二本松市立油井小学校 | 保護者・教職員 | 64 | | | | |
| 8月5日 | 東日本国際大学附属昌平高校 | JRCメンバー | 18 | 7月5日 | 田村市立芦沢小学校 | 保護者・教職員・児童 | 56 | | | | |
| 8月5日 | 青少年赤十字会津地区高等学校指導者協議会 | JRCメンバー | 18 | 7月6日 | 田村市立要田小学校 | 保護者・教職員 | 36 | | | | |
| 8月7日 | 青少年赤十字会津地区高等学校指導者協議会 | JRCメンバー | 30 | 7月6日 | 田村市立大越小学校 | 保護者・教職員 | 49 | | | | |
| 8月7日 | 福島県磐城第一高校 | JRCメンバー | 14 | 7月6日 | 石川町立沢田小学校 | 保護者・教職員・児童 | 13 | | | | |
| 8月19日 | 青少年赤十字県北地区高等学校指導者協議会 | JRCメンバー | 9 | 7月7日 | 郡山市立白岩小学校 | 保護者・教職員・児童 | 25 | | | | |
| 養成講習 | | | | | | | | | | | |
| 8月6・7日 | 東日本国際大学附属昌平高校 | JRCメンバー | 18 | 7月9日 | 福島県高等学校指導者協議会 | JRCメンバー | 21 | | | | |
| 8月8・9日 | 福島県磐城第一高校 | JRCメンバー | 14 | 7月11日 | 白河市立五箇小学校 | 保護者・教職員・児童 | 50 | | | | |
| 8月20・21日 | 青少年赤十字県北地区高等学校指導者協議会 | JRCメンバー | 9 | 7月11日 | いわき市立汐見が丘小学校 | 児童 | 123 | | | | |
| 短期講習 | | | | | | | | | | | |
| 5月7日 | 青少年赤十字岩瀬地区指導者協議会 | 指導者協議会会員 | 40 | 7月11日 | 福島市立平田小学校 | 保護者・教職員 | 20 | | | | |
| 6月9日 | 福島市立杉妻小学校 | 児童・教職員・保護者 | 172 | 7月12日 | 本宮市立白岩小学校 | 保護者・教職員・児童 | 83 | | | | |
| 6月10日 | 郡山市立朝日が丘小学校 | 教職員 | 23 | 7月12日 | 二本松市立小浜小学校 | 教職員 | 12 | | | | |
| 6月12日 | 青少年赤十字田村地区指導者協議会 | 指導者協議会会員 | 43 | 7月12日 | 白河市立白河第1小学校 | 教職員 | 20 | | | | |
| 6月13日 | 青少年赤十字東白川地区指導者協議会 | 指導者協議会会員 | 26 | 7月17日 | 田村市立瀬川小学校 | 保護者・教職員 | 34 | | | | |
| 6月21日 | 会津若松市立一箕小学校 | 保護者・教職員 | 69 | 7月17日 | 白河市立みさか小学校 | 保護者・教職員・児童 | 24 | | | | |
| 6月25日 | 青少年赤十字西白河地区指導者協議会 | 指導者協議会会員 | 30 | 7月22日 | 福島県立須賀川養護学校 | 教職員 | 35 | | | | |
| 6月28日 | 会津若松市立日新小学校 | 保護者・教職員 | 28 | 7月30日 | 青少年赤十字両沼地区指導者協議会 | 教職員・JRCメンバー | 65 | | | | |
| 6月28日 | 白河市立白河第2小学校 | 保護者・教職員 | 56 | 7月31日 | 福島地区青少年赤十字指導者協議会 | 教職員・JRCメンバー | 115 | | | | |
| 6月28日 | 白河市立白河第3小学校 | 保護者・教職員 | 34 | 8月1日 | 耶麻地区青少年赤十字指導者協議会 | 教職員・JRCメンバー | 38 | | | | |
| 7月2日 | 郡山市立守山小学校 | 保護者・教職員・児童 | 32 | 8月6日 | いわき・相双地区高等学校青少年赤十字指導者協議会 | JRCメンバー | 26 | | | | |
| 7月2日 | 白河市立大屋小学校 | 保護者・教職員 | 21 | 8月20日 | 青少年赤十字指導者講習会 | 教職員 | 51 | | | | |
| 7月2日 | 郡山市立永盛小学校 | 保護者・教職員 | 25 | 8月21日 | 青少年赤十字西白河地区指導者協議会 | 保護者・教職員・児童 | 44 | | | | |
| 7月2日 | 郡山市立桜小学校 | 保護者・教職員 | 42 | 9月17日 | 田村市立移中学校 | 生徒・教職員 | 55 | | | | |
| 7月3日 | 西郷村立羽太小学校 | 保護者・教職員 | 36 | 9月29日 | 須賀川市立長沼東小学校 | 保護者・教職員 | 64 | | | | |
| 7月3日 | 郡山市立高瀬小学校 | 保護者・教職員 | 26 | 水上安全講習会 | | | | | | | |
| 7月4日 | 郡山市立高倉小学校 | 保護者・教職員 | 32 | 6月27日 | 喜多方市立会北中学校 | 生徒 | 70 | | | | |
| 7月5日 | 鏡石町立鏡石第2小学校 | 保護者・教職員 | 20 | 6月27日 | 中島村立吉子川小学校 | 保護者・教職員 | 50 | | | | |